

# 仕 様 書

- 1 品 名 防火衣一式  
(1) 防火衣コンファートゴールド (上下) しころ付き、背文字入り  
(2) 防火帽 NEO-TS 型  
(3) 防火衣用ゴム長靴 SG-A0 型  
(4) 安全帯 NEO-2
  
- 2 規 格 別添仕様書のとおり
  
- 3 数 量 防火衣一式 3名分
  
- 4 採 寸 契約後に実施
  
- 3 納入期限 平成30年 3月30日 (金)
  
- 4 納入場所 熱海市中央町1-1 熱海市消防本部

## 防火衣（採寸表）

- 1 防火衣（上衣） サイズ
- 2 防火衣（ズボン） サイズ
- 3 防火衣用ゴム長靴 サイズ

# 防火衣仕様書

[コンフォートタイプ上下型ゴールド防火衣]

しころ付き／背文字入り仕様書

# 防火衣仕様書

## 1. 概要

この防火衣は、外衣と中衣からなる多層構造とし、Tライン袖及び特殊立体デザインされた上衣、特殊立体デザインのサスペンダー付きズボンとする。

## 2. 使用材料

### 1) 外衣生地（上衣／ズボン共）

素材はメタ型アラミド及びパラ型アラミドとし、規格は3. 1) 外衣生地の全ての項目を満たすものとする。

品番	X27R45（ゴールド色）
混率	メタ型アラミド 90% パラ型アラミド 10%
色相	ネイビー・ゴールド・グリニッシュイエロー・オレンジ
組織	平織（リップストップ）
密度	タテ 48 本以上（2.54 cm間） ヨコ 44 本以上（2.54 cm間）
番手	タテ、ヨコ共 20 番手双糸（E.C.C 換算）
重量	235±15g/m <sup>2</sup> 以下
加工	撥水加工、撥油加工、帯電防止加工

### 2) 中衣

#### ①透湿防水層（上衣／ズボン）

素材はメタ型アラミド及びパラ型アラミドの生地に PTFE 透湿防水膜をラミネートしたものとする。規格は3. 2) 中衣（透湿防水層）の全ての項目を満たすものとする。

品名	X29M20 ゴアテックスラミネート品
種類	メタ型アラミド 95%、パラ型アラミド 5%の混紡糸からなる 40/1×40/1の平織生地に PTFE 透湿防水膜（ゴアテックス）を ラミネートしたもの。

#### ②遮熱層兼裏地

##### ア. 上衣

素材はメタ型アラミド及びパラ型アラミド及びポリエステルとし、規格は3. 3) 中衣（遮熱層兼裏地 上衣用）の全ての項目を満たすものとする。

品番	X29F20
混率	メタ型アラミド 89% パラ型アラミド 5% ポリエステル 6%

組 織 二重織（表:平織/裏:平織）結節部として一部平織物有り

イ.ズボン

素材はメタ型アラミド及びパラ型アラミドとし、規格は3.4) 中衣(遮熱層兼裏地ズボン用)の全ての項目を満たすものとする。

品 番 X29R20

混 率 地組織部 メタ型アラミド 95%、パラ型アラミド 5%  
格子部 パラ型アラミド 100%

組 織 平織（リップストップ）

3) 補助材料

内袖口 アラミド 100%ニット

面ファスナー 幅 25mm・50mm・38mm

反射材 スリーエム 9500 シリーズ 75mm

ファスナー YKK ファスナー

サスペンダー ゴム製テープ 幅 38mm 黒色

押しホック 真鍮製#7050 A マーク

アイスポケット ナイロン黒メッシュ

縫製糸 メタ型アラミド 100% 40番

パラ型アラミド（フィラメント）30番 反射テープ部分

### 3. 規格

#### 1) 外衣生地

項目	規格		試験方法
混紡率	メタ型アラミド 90% パラ型アラミド 10%		JISL1030
番手	タテ、ヨコ共 20 番手双糸		E.C.C 換算
組織	平織 (リップストップ)		JIS L 1096
密度	タテ ヨコ	48 本 以上 (2.54cm 間) 44 本 以上 (2.54cm 間)	JIS L 1096
引張強度	タテ ヨコ	1200N 以上 1100N 以上	JIS L 1096A 法
引裂強度	タテ ヨコ	110N 以上 100N 以上	JIS L 1096A-1 法
重量	235±15g/m <sup>2</sup>		JIS L 1096
染色堅牢度	洗濯 (変) (汚) 汗変退色 摩擦 (乾)	4 級 以上 4 級 以上 4 級 以上 4 級 以上	JIS L 0844A-2 法 JIS L 0844A-2 法 JIS L 0848A 法 JIS L 0848 II 形法
寸法変化率	タテ ヨコ	±3% 以内 ±3% 以内	JIS L 1042G 法
燃焼性	残炎時間 余じん時間 炭化面積	1.0 秒 以下 1.0 秒 以下 10.0cm <sup>2</sup> 以下	JIS L 1091A-1 法
撥水性	L0/L10	5 級以上/3 級以上	JIS L 1092 スプレー法
撥油性	L0/L10	6 級以上/4 級以上	AATCC118 法
制電性	7μC 以下		JIS L 1094 摩擦帯電電荷量測定方法

2) 中衣 (透湿防水層)

項目	規格		試験方法
混紡率	メタ型アラミド	95%	JIS L 1030
	パラ型アラミド	5%	
引張強度	タテ	300N 以上	JIS L 1096A 法
	ヨコ	300N 以上	
引裂強度	タテ	40N 以上	JIS L 1096A-1 法
	ヨコ	40N 以上	
重量	115g/m <sup>2</sup>		JIS L 1096
燃焼性	残炎時間	1.0 秒 以下	JIS L 1091A-1 法
	余じん時間	1.0 秒 以下	
	炭化面積	15.0cm <sup>2</sup> 以下	
耐水圧	初期 20 回洗濯後	294kPa 以上	JIS L 1092
透湿度	800g/m <sup>2</sup> ・h 以上		JIS L 1099B-2 法
液体の浸透性	下記 (a) ~ (e) がそれぞれ、 80%以上流れ、かつ浸透しないこと。 (a) 20℃、40%水酸化ナトリウム (b) 20℃、36%塩酸 (c) 20℃、37%硫酸 (d) ホワイトスピリット		ISO6530 準拠
	(e) 人工血液 (界面活性剤代用可)		ASTM F 1670 (ISO6530 準拠)
撥水性	初期	5 級以上	JIS L 1092 スプレー法
	20 回洗濯後	3 級以上	

3) 中衣 (遮熱層兼裏地 上衣用)

項目	規格		試験方法
混紡率	メタ型アラミド 89%	パラ型アラミド 5%	JISL1030
	ポリエステル 6%		
番手	タテ、ヨコ共 40 番手双糸		E.C.C 換算
組織	二重織 (表:平織/裏:平織) 結節部として一部平織物有り		JIS L 1096
密度	タテ	88±5 本 (2.54cm 間)	JIS L 1096
	ヨコ	110±5 本 (2.54cm 間)	
引張強度	タテ	670±30N	JIS L 1096A 法
	ヨコ	710±90N	
引裂強度	タテ	63±30N	JIS L 1096A-1 法
	ヨコ	67±30N	
重量	130±10g/m <sup>2</sup>		JIS L 1096
染色堅牢度	洗濯 (変)	4 級 以上	JIS L 0844A-2 法
	(汚)	4 級 以上	JIS L 0844A-2 法
	汗変退色	4 級 以上	JIS L 0848A 法
	摩擦 (乾)	4 級 以上	JIS L 0848 II 形法
燃焼性	残炎時間	1.0 秒 以下	JIS L 1091A-1 法
	余じん時間	1.0 秒 以下	
	炭化距離	10.0cm 以下	
制電性	7 $\mu$ C 以下		JIS L 1094 摩擦帯電電荷量測定方法

4) 中衣 (遮熱層兼裏地 ズボン用)

項目	規格		試験方法
混紡率	地組織部	メタ型アラミド 90%	JISL1030
		パラ型アラミド 10%	
	格子部	パラ型アラミド 100%	
番手	タテ、ヨコ共 40 番手双糸		E.C.C 換算
組織	平織 (リップストップ)		JIS L 1096
密度	タテ	70 本 以上 (2.54cm 間)	JIS L 1096
	ヨコ	55 本 以上 (2.54cm 間)	
引張強度	タテ	950N 以上	JIS L 1096A 法
	ヨコ	800N 以上	
引裂強度	タテ	55N 以上	JIS L 1096A-1 法
	ヨコ	50N 以上	
重量	160±10g/m <sup>2</sup>		JIS L 1096
染色堅牢度	洗濯 (変)	4 級 以上	JIS L 0844A-2 法
	(汚)	4 級 以上	JIS L 0844A-2 法
	汗変退色	4 級 以上	JIS L 0848A 法
	摩擦 (乾)	4 級 以上	JIS L 0848 II 形法
寸法変化率	タテ	±1% 以内	JIS L 1042G 法
	ヨコ	±1% 以内	
燃焼性	残炎時間	1.0 秒 以下	JIS L 1091A-1 法
	余じん時間	1.0 秒 以下	
	炭化面積	10.0cm <sup>2</sup> 以下	



## 4. 縫製

### 1) 全般

- ア. 各部の縫い合わせは良好である事。
- イ. 糸調子は良好である事。
- ウ. 縫い代は約 1 c mとし表地はオーバーロックを掛け縫い始めと縫い終わりは返し針を施す事。

## 5. 上衣

### 1) 身頃

- ア. 左前身に幅 9 c mの前立付きとし前立内側に面ファスナー及び金属ファスナーを縫い付ける。
- イ. 前身頃のハギ協合わせはオーバーロックの上片倒し飾り縫いとする。
- ウ. 右前身頃に面ファスナーと金属ファスナーを付ける。
- エ. 後身頃は一枚仕立てとする。
- オ. 前立側面にマイクハンガーを取り付ける。
- カ. 前身頃胸部・後身頃背中・裾に反射布を縫いつける。
- ク. 見返し上部にハギを入れ中衣着脱のコイルファスナーを付ける。
- ケ. 背部に消防本部指定の文字をスクリーン印刷する。

### 2) 襟

- ア. 表及び裏に表地共布を用いた一枚襟とし、芯地を貼り、地縫いの上飾り縫いをする。襟の形状は別紙通りとする。
- イ. 襟裏は 1 4 本の山刺し入りとする。
- ウ. 襟幅は中央部で約 1 1 c m剣先部で約 9 c mとする。
- エ. 左襟元と左前身ごろの間に隙間が出来ないようにハギを入れる。
- オ. 表襟中央に襟吊りとサイズマークを付ける。
- カ. 襟裏を立てて使える様に面テープを取り付ける。

### 3) 袖

- ア. 袖は T ラインとし、脇には特殊立体縫製のハギを入れる。
- イ. 袖口より約 9 c mにアラミド素材のジャージと浸水防止用透湿防水層を縫い付ける。
- ウ. 袖口には外衣擦れ防止用として幅約 3 c mの共生地をつける。
- エ. 袖口より約 1 0 c m上に反射布を縫いつける。

### 4) ポケット

- ア. ポケット上部は約 5 c mの傾斜を付けた斜めポケット、形状は三方風巾ポケットを左右に縫い付け雨蓋付けとする。
- イ. 雨蓋は芯地を貼り、面ファスナーを付け地縫いの上飾り縫いとする。

ウ. ポケット上部及びベルト通し裏面に力布として透湿防水層を縫いつける。

エ. ポケット内側に警笛用ループを取り付ける。

オ. ポケット下部に水抜き穴を設ける。

#### 5) ベルト通し

左右の身頃及び背中に安全帯用ベルト通しを取り付ける。

#### 6) 肩当て

内側にウールラシャを透湿防水層で包み込んだパットを縫い付ける。

#### 7) 片布

右前身頃見返し部に片布を取り付ける。

#### 8) 中衣

ア. 中衣は透湿防水層と遮熱層兼裏地からなり、各々を重ね縫いすること。

イ. 両脇に保冷材収納用貼りポケットを縫い付ける。

ウ. 透湿防水層は地縫いの上片倒し飾り縫いをしてシームテープで目止めをする。

エ. 裾はオーバーロックをし二つ折りにして飾り縫いをする。

オ. 回りはバイヤステープで包み縫いし着脱用コイルファスナーを縫い付ける。

カ. 右側下部に取り扱い表示、及びサイズマークを縫い付ける。

キ. GORE - TEX の品質証明表示マークを縫い付ける。

## 6. ズボン

### 1) 身頃

ア. ズボンの形状は、最初から「く」の字の様に曲がっているデザインとして締め付けベルトとサスペンダーにより肩から支持するものとする。

イ. 前身頃は4枚ハギ仕立てとし前身中心にコバステッチを掛ける。

ウ. 後身頃は3枚ハギ仕立てとする。

### 2) 前立て

ア. 前立てはファスナー仕立てとし前カンは押しホックで止める。

イ. 前立て部に中衣止め用の面ファスナーを取り付ける。

ウ. 天狗裏下部に約14cmの棒シックを縫い付ける。

### 3) 腰部

ア. 腰部背面に収縮ギャザー、両側面に黒色の腰回り調整用の腰回り調整用のベルトを取り付ける。

イ. 腰裏中心に外衣共生地でサスペンダー支持台を縫い付け、前身上部にサスペンダー受金具支持台を縫い付ける。端末部分は環止めをする。

ウ. 腰裏地に中衣との着脱の為ファスナーを取り付ける。

### 4) 脇・内股及び尻縫い

ア. 脇縫いはインターロックの上片倒し縫いとする。

イ. 内股は裁ち目をオーバーロック掛け、片倒し縫いとする。

ウ. 尻縫いは裁ち目をオーバーロック掛け、片倒し縫いとする。

#### 5) 裾

ア. 両裾から約10cm上の位置に、巾75mmの反射テープを縫い付ける。

イ. 中衣固定のため、両側に自在に動くように押しホック4個を取り付けること。

ウ. 裾口に開閉ファスナーを取り付ける。

エ. 裾口に絞り用面ファスナーを取り付ける。

#### 6) 中衣

ア. 中衣は透湿防水層と遮熱層兼裏地からなり、各々を重ね縫いすること。

イ. 透湿防水層は地縫いの上片倒し飾り縫いをしてシームテープで目止めをする。

ウ. 外衣との着脱の為ファスナーと面ファスナーを取り付ける。

エ. 左側上部に取り扱い表示・片布・サイズマークを取り付ける。

オ. GORE - TEX の品質証明表示マークを縫い付ける。

#### 7) 片布

左腰裏に品質表示マーク・サイズマークを取り付ける。

### 7. しころ

ア. しころは1枚裁ちとし、傷、汚れ等の欠点のないものとする。

イ. 外衣生地と塩ビ生地を、重ねて縫い合わせたものを使用し、  
高さは約20cmとする。

ウ. 裏面上部へりを、綿テープにより補強する。

エ. 顔面を覆う折り返しを外衣生地で縫い付ける。

オ. 片布を裏面に縫い付ける。

## 8. 寸法表

### ア. 上衣

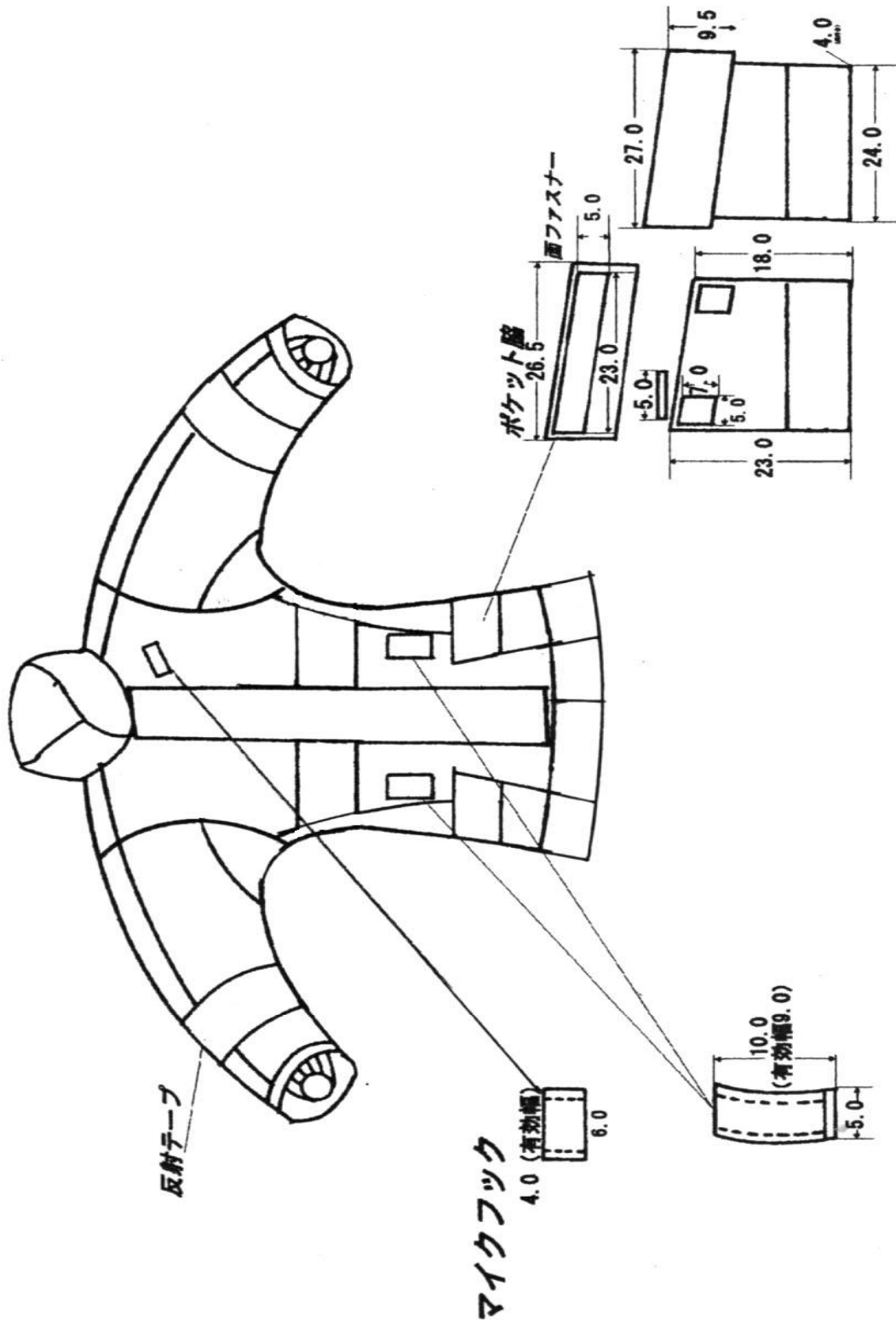
サイズ	着丈	衿丈	胸囲	裾回
M	74	80	120	120
L	78	83	124	124
LL	82	86	130	130
LLL	86	89	136	136

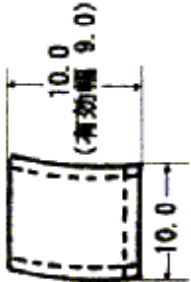
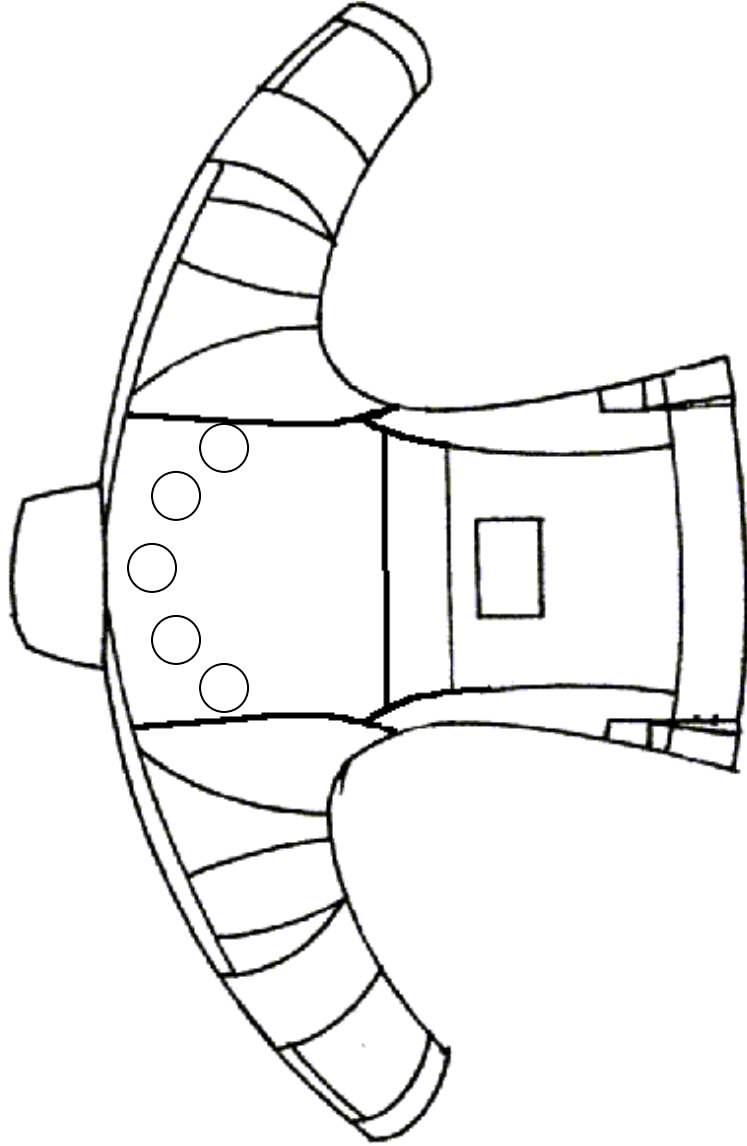
### イ. ズボン

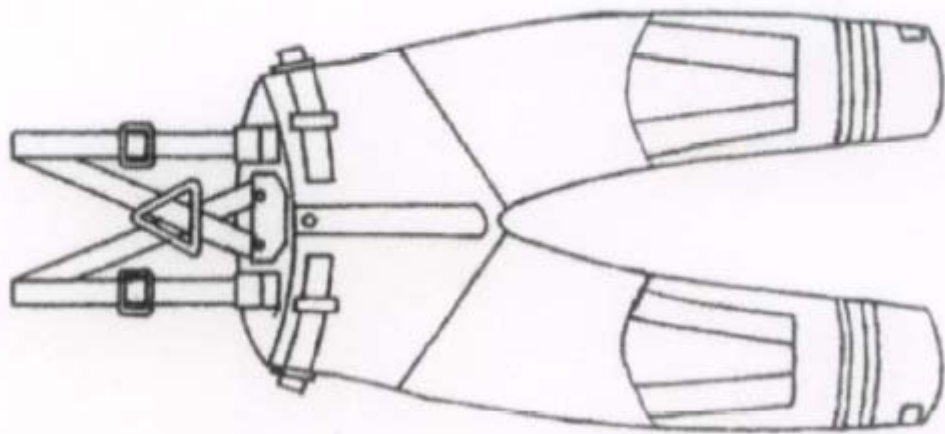
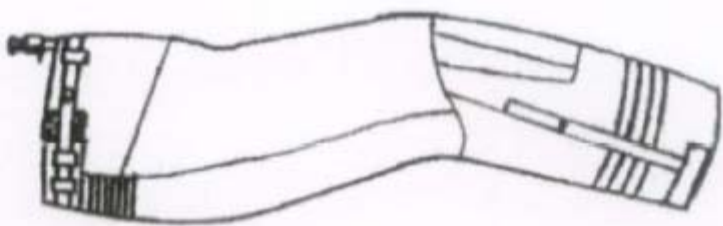
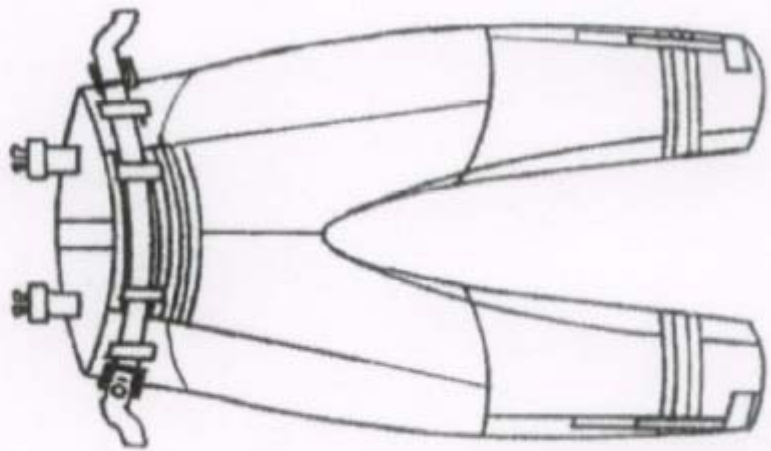
サイズ	腰回	総丈	股下	渡り幅
M-70	80~90	99	70	38
M-75		104	75	
L-70	90~98	100	70	40
L-75		105	75	
LL-70	98~106	101	70	42
LL-75		106	75	

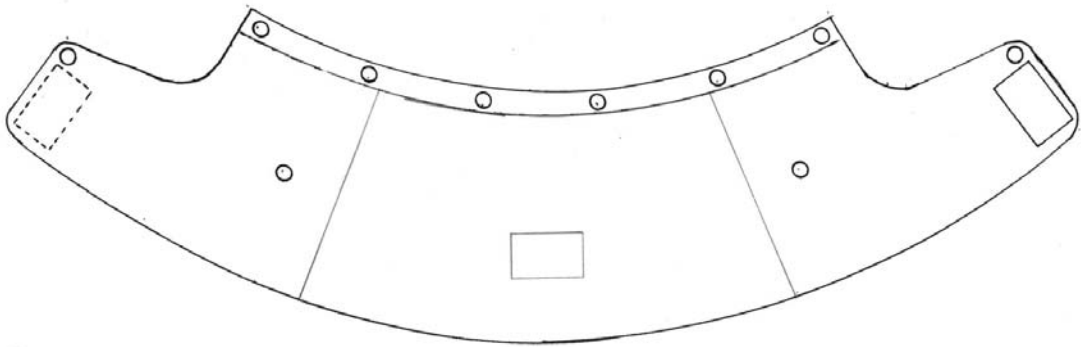
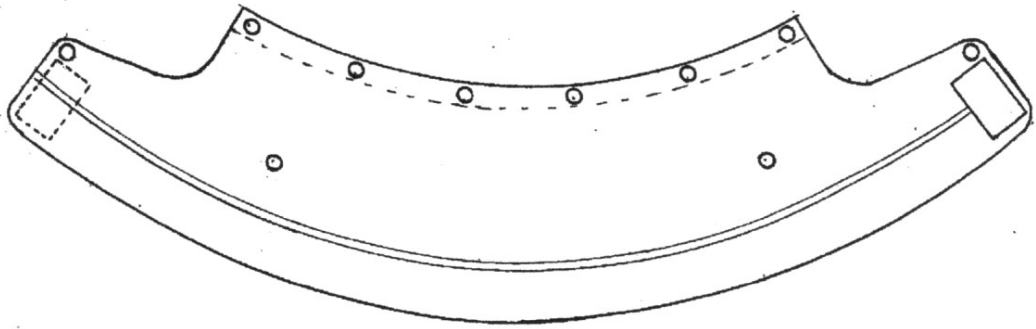
## 9. 附則

使用する表生地に関して、見積り合わせ又は入札時に紡績メーカーの品質証明書並びに出荷証明書を提出する事。











# 防火帽仕様書 (NEO-TS 型)

## 総則

労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号）第 42 条の規定（以下「労安法」とする。）に基づく保護帽の規格（昭和 50 年 9 月労働省告示第 66 号）に適合するものとする。

## 仕様

### 1. 規格

規格等は、別表 1、2 の通りとする。

### 2. 性能

帽体については、自己消火性を有することとし試験方法等については、別表 1 の通りとすること。

### 3. 構造

#### ア. 概要

防火帽は、概要図①のように銀色の帽体表面に徽章及び反射テープを貼り付け、左右に消防本部名を入れたものとする、内側に衝撃吸収ライナー、ヘッドバンド等の装着体及び可動式の顔面保護板を取り付け、帽体下部の外周部にしころを取り付けられるものとする。また、物体の飛来または落下による危険及び墜落による危険から装着者の頭部を保護する構造及び性能を有し、頭部の動きによるぐらつきが少なく、装着中に不快感が無いこと。

#### イ. 形状等

##### (ア) 帽体

##### a 本体

概要図①及び次の通りとすること。

(a) 表面は滑らかで、堅牢であること。

(b) 外面（表面）の仕上げは、銀色の塗装とし、容易にはく離しないこと。

##### b 徽章等

帽体前面中央に強固に取り付ける。

##### c 掛け金具

帽体後部中央に半月環状の掛け金具を取り付けること。

##### (イ) 装着体

##### a ハンモック

かぶり深さを調整できる、補助ハンモック付とすること。

##### b ヘッドバンド

頭回りに応じて概ね 54 cm から 60 cm までの範囲で自由に調節できることとし、頭が接触する部分に、吸水性及び耐久性に優れた素材を取り付けること。

##### c しころ取付板

概要図 及び次の通りとすること。

(a) しころ取付用として、帽体に取り付けること。

(b) しころ取付板には、押しホック（オス）を6個取り付けるものとする。

d 頭頂パッド

頭頂部にクッション性、吸水性及び耐久性に優れた素材を使用した小判型、もしくは正円型の頭頂パッドを着脱可能な方法で取り付けること。

(ウ) あごひも

a あごひも（アゴ締め用）は、片方を押しホックで着脱できるものとし、使用中防火帽が脱落したり、ぐらついたりしないように確実に締められるものとする。

b あごひも調節金具に、あごひもと同素材を用いたつまみを取り付けること。

(エ) 着装体固定リベット

着装した状態で、装着体固定リベットと着装者の頭部が直接接触しないこと。

(オ) 顔面保護板

a 前面からの注水に対し顔面を保護できる構造とし、視界の妨げとなるゆがみ等がないこと。

b 帽体から円滑に引き出せ、引き出した状態でぐらつきを防止するロック機構を設けること。

c 下側縁の形状は、空気呼吸器用の面体に合わせた円弧状とし、端面は塩化ビニールで保護すること。

d 収納した状態で、中央部の下がりとは15mm以下とし、両端は視野の障害とならないこと。

4. 備考

詳細について不明な点がある場合、担当者と打ち合わせすること。

## 別表 1

防火帽の規格等一覧

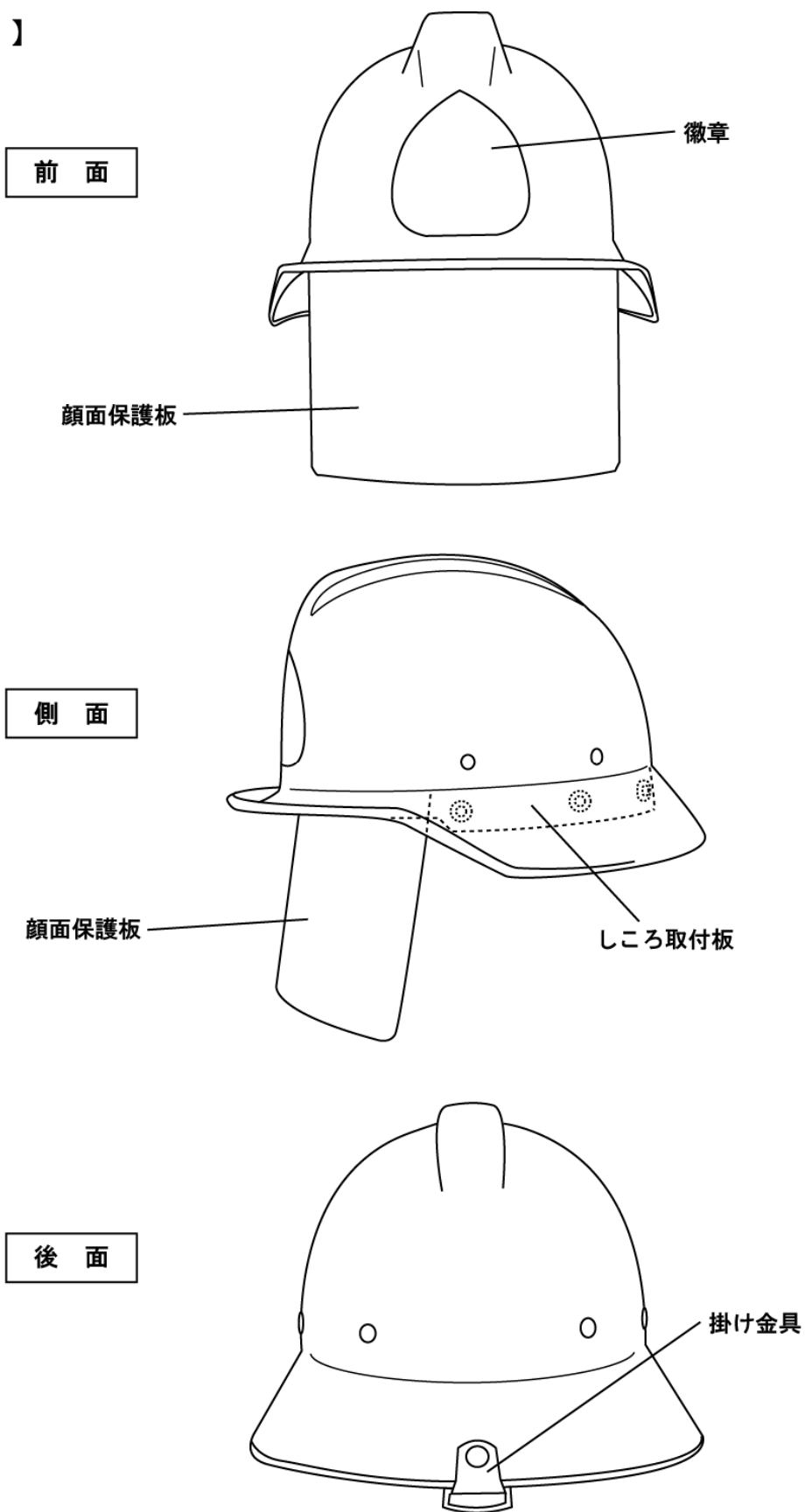
項目		規格等
帽体		ガラス繊維を基材としたポリエステル樹脂による強化プラスチック製
衝撃吸収ライナー		発泡スチロール、またはこれと同等の衝撃吸収性能を有するもの
着 装 体	ハンモック	ポリエチレン成形品、白色
	補助ハンモック	
	しころ取付板	
	ヘッドバンド	
	補助ハンモック調整ひも	ポリエステル又はナイロン製、白色、長さ350mm以上 両端ほつれ止め処理
装着体固定リベット		防食性を有する金属製（あごひもの固定金具を兼ねる事が出来るもの）
あごひも		ナイロン重織、黒色で縁赤線入り、幅18mm、全長550mm
あごひも調整金具		黄銅製または同等の強度及び防食性を有する金属製 （黒色ニッケルメッキを施したもの）
顔面保護板		ポリカーボネード板（両面をハードコートしたもの）、無色透明 縦（有効長） 130mm以上 横（周長） 230mm以上 厚さ 1.5mm以上
帽体の自己消火性		残炎・残じん時間：5秒以下 プロパンガス（純度95%以上）をブンゼンバーナー（口径10mm）を使用して、青色炎が20mmとなるように調節して燃焼させ、帽体のつば後部中心から左右50mm、縁から20mmの位置を試験点とし、帽体のつばを水平に保持し炎の先端を試験点に15秒間当てた後、炎を取り去り、帽体の残炎・残じん時間を調べる。  試験方法等は保護帽の規格第7条による。

## 別表 2

防火帽の補助材料等の規格一覧

部品名		規格等
帽 体	前章	署マーク。立体型塩化ビニール製マイクロプリズム、色反射性能付き。
	掛け金具	黄銅製（ニッケルメッキ）または同等の強度及び防食性を有する金属製

【概要図1】



【概要図 2】



【概要図 2】



# 防火靴 SG-AO 型 仕様書

# 「防火靴SG-AO型」仕様書

## 1. 概要

本仕様書は、「防火靴SG-AO型」（以下、長靴という）について規定する。

## 2. 適用規格

### ・ J I S T 8 1 0 3（静電気帯電防止靴）

帯電防止性能区分：ED（一般静電靴）

防護性能区分：P（安全靴）

甲被区分：非耐油性ゴム製

※但し、表底は耐油性ゴムを使用する。

環境区分：C3

作業区分：L（軽作業用）

※但し、先しん性能はS（普通作業用）とする。

付加的性能：P（耐踏抜き性）

- ・ 消防隊員用個人防火装備のあり方に関する検討会報告書（個人防火装備のガイドライン）  
第2章 第3節 総ゴム製

## 3. 品質

### 3-1. 外観

- 1) 表底、甲被、その他の接合部分の密着が良好でかつ、水漏れせず、ゴムはがれ、ゴム浮きなどの欠点がないこと。
- 2) 付属品（ひも、はとめ、ファスナーなど）の付け方が堅固であること。
- 3) 使用上有害な傷、亀裂、巣、気泡、異物の混入、その他これらに類する欠点がないこと。
- 4) 目立って外観を損なうような斑点、汚れ、模様の不鮮明、その他の欠点がないこと。
- 5) 表底には、使用目的に適合した滑り止め、その他の意匠があること。
- 6) 裏布は染むらのないものであること。
- 7) ファスナーは着脱しやすい様に可能な範囲で斜めにする事。



### 3-2. 性能

長靴は表1に示す規格に適合しなければならない。

表1

試験項目		性能		規格	試験方法	
表底の試験	引張試験	引張強さMPa	9 以上		JIS K 6251	
		伸び%	350 以上			
	老化試験	引張強さの変化率%	-20~+20		JIS K 6257	
	浸せき試験	体積変化率%	12 以下		JIS K 6258	
	耐摩耗性	相対減量mm <sup>3</sup>	250 未満		ISO 4649 A法	
耐屈曲性	屈曲回数30,000回での亀裂長さmm	4 未満		ISO 20344		
甲被の試験	引張試験	引張強さMPa	13 以上		JIS K 6251	
		伸び%	420 以上			
	老化試験	引張強さの変化率%	-20~+20		JIS K 6257	
耐屈曲性	屈曲回数125,000回で亀裂のないこと			ISO 2023附属書E		
耐化学薬品性能	液体化学薬品浸透性	流出率% (40%NaOH、36%HCl、30%H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> 、パラキソ100%)	流出>80 裏面への浸透無し		ISO 6530	
耐炎・耐熱性能	耐炎性	残炎・残じん時間s	2 以下		ISO 15025 A法 又はJIS T 8022	
		穴あき、着炎、溶融不可				
	熱伝達 (接触熱)	10分後		靴底温度 42℃未満		ISO 20345
		15分後		靴底温度 55℃未満		
		20分後		劣化がないこと		
	熱伝達 (放射熱ばく露)	放射熱伝達指数RHTI24 s		18 以上		ISO 6942又は JIS T 8020
放射熱伝達指数RHTI24とRHTI12の差 s		4 以上				
平均熱透過率 %		50 以下				
耐熱性	180℃、5分で溶融、滴下、分離、発火のないこと。収縮率は5%以下であること			ISO 17493 又は JIS T 8023		
耐熱性 (縫糸・紐)	180℃、5分で溶融、滴下、分離、発火のないこと。					
踏抜き防止板	耐屈曲性	屈曲回数30,000回で目に見える亀裂のないこと			EN344	
完成品の試験	漏れ防止試験	連続して気泡が出ないこと。			JIS T 8101	
	圧迫試験及び衝撃試験	サイズ (cm)	隙間 (mm)		JIS T 8101 作業区分 S ※圧迫10kN、 衝撃70J	
		23.0以下	12.5 以上			
		23.5~24.5	13.0 以上			
		25.0~25.5	13.5 以上			
		26.0~27.0	14.0 以上			
	27.5~28.5	14.5 以上				
	29.0以上	15.0 以上				
	耐踏抜き試験	荷重 N	1100 以上		JIS T 8101	
	突き刺し抵抗	くるぶし上辺及び底周辺部 静荷重N	196 以上		JIS T 8101に 準拠	
内踏まず部 静荷重N		980 以上				
かかと部の衝撃エネルギー吸収試験	かかと部の衝撃エネルギー吸収性 J	20 以上		JIS T 8101		
静電気帯電防止性能試験	電気抵抗値 (R) Ω	測定温度: 23±2℃		JIS T 8103 環境区分: C 3		
		1.0×10 <sup>5</sup> ≤ R ≤ 1.0×10 <sup>8</sup>				
		測定温度: 0 <sup>+2</sup> °				
		1.0×10 <sup>5</sup> ≤ R ≤ 1.0×10 <sup>9</sup>				

#### 4. 寸法

(1) 形状：長靴の形状は付図1を標準とする。

(2) 厚さ：長靴の各部の厚さは表2に規定する。

表2 (単位mm)

部 位	表 底		甲 被
	最薄部		
厚 さ	2.5以上		1.2以上

(3) サイズ：長靴のサイズは表3（J I S S 5037）に規定する。

但し、足囲は中敷を含まない時の値である。

表3

サイズ	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0	25.5	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0	28.5	29.0		30.0
足 囲	E E E															

(4) 寸法：長靴の寸法は表4に規定する。

表4 (単位cm) 公差±1.5

cm

サイズ	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0	25.5	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0	28.5	29.0		30.0
前 寸	33.0			34.0			35.0									
後 寸	32.0			33.0			34.0									

(5) 表底サイズ区分：表底の意匠タイプのサイズ区分を表5に規定する

意匠パターンは付図2, 3(表底意匠パターン)参照

表5

サイズ	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0	25.5	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0	28.5	29.0		30.0
底意匠	S K - 2型															US-2A型

## 5. 仕様材料

長靴の各部の材料は表5のとおりとする。

表5

使用部分	材料
甲被ゴム	加硫ゴム
表底	耐油性加硫ゴム
キックスタンド	加硫ゴム
裏布	スフメリヤス#20/1200本(グレー)
くるぶし・底周辺補強	アラミド繊維フェルト
踏抜き防止板	ステンレス板(パネ材)厚さ0.5±0.03mm ※靴サイズ毎に1サイズ防止板が割り振られ、中底に対して全面カバーすること。
踏まず部踏抜き防止板	ステンレス板 厚さ0.6±0.07mm
先しん	鋼製先しん(JIS T 8101 作業区分S)
靴紐	ナイロン黒色160±10cm
ファスナー	8CNCDADHR1 黒 ※引き手の破損しにくい形状で或る事(付図ファスナー引き手参照)
ファスナー紐	樹脂加工丸紐・止め金具付
中敷き	導電性カップインソール(黒)
反射テープ	色調:黄色
JISマーク	JIS T 8103(静電気帯電防止靴)※認証機関:CERIE ED-P/C3/非耐油性ゴム製/L/P

## 6. 包装及び表示

(1) 右足に静電検査合格票を入れ、1足ずつ紙袋に入れる。

(2) 品名・サイズ等を表示する。

品名「防火靴SG-AO型」

(3) JISに関連する表示

JIS T 8103(静電気帯電防止靴)合格品であり、以下の項目を明記しなければならない。

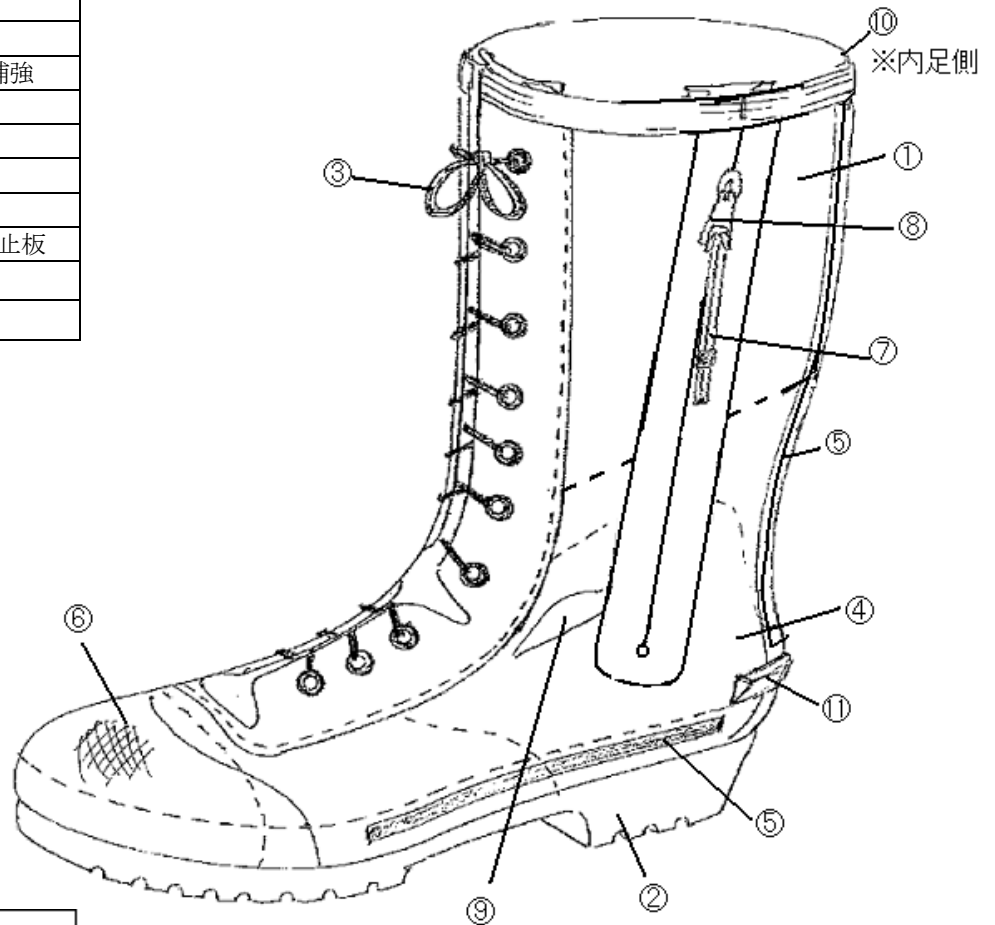
(製品及び最小梱包)

- a) JIS認証マーク
- b) JIS認証機関名(=CERI)
- c) JISの規格番号及び名称
- d) 種類又はその記号
- e) 環境区分又はその記号
- f) 靴サイズ
- g) 製造業者名又は略号
- h) 製造年月又はその記号

# 付 図 1 (全体図)

注：標準参考図です。

No	部 位
①	甲被
②	表底
③	靴紐
④	くるぶし・底周辺補強
⑤	反射テープ
⑥	先しん
⑦	ファスナー紐
⑧	ファスナー
⑨	踏まず部踏抜き防止板
⑩	J I Sマーク
⑪	キックスタンド




**JIS T 8103**  
 静電気帯電防止靴  
 ED-P/C3  
 CER1 非耐油性ゴム LP  
 CEC508019  
 製造元: **シワラ工業株式会社**

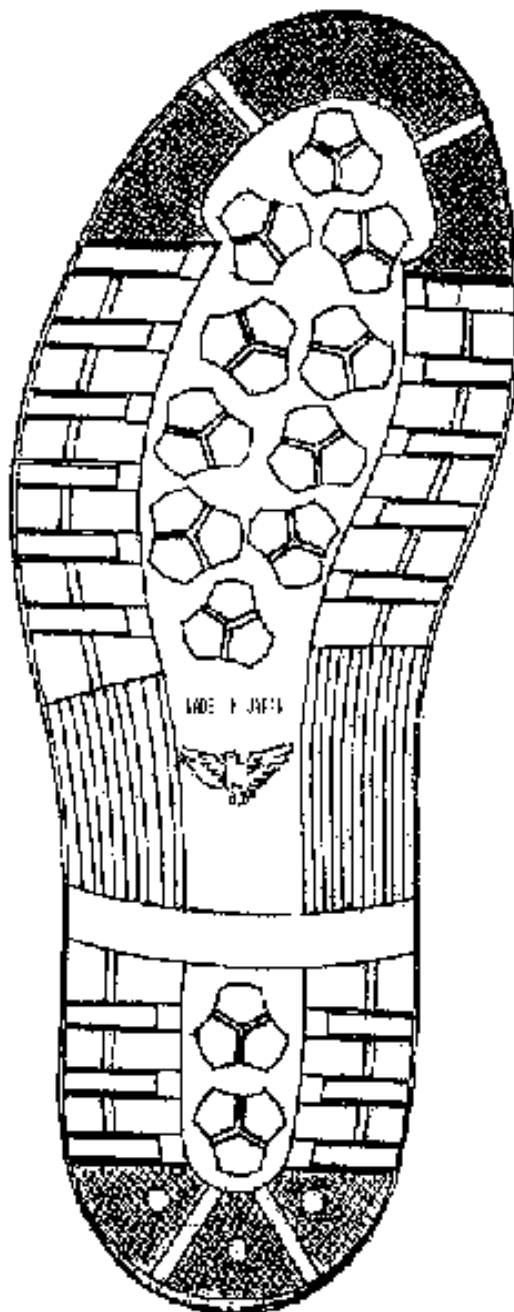
※内足側

## ( J I S マーク )

※色調は、ゴムベース色 黄色  
 印字色 黒色

付 図 2 (表底意匠パターン) : SK-2型

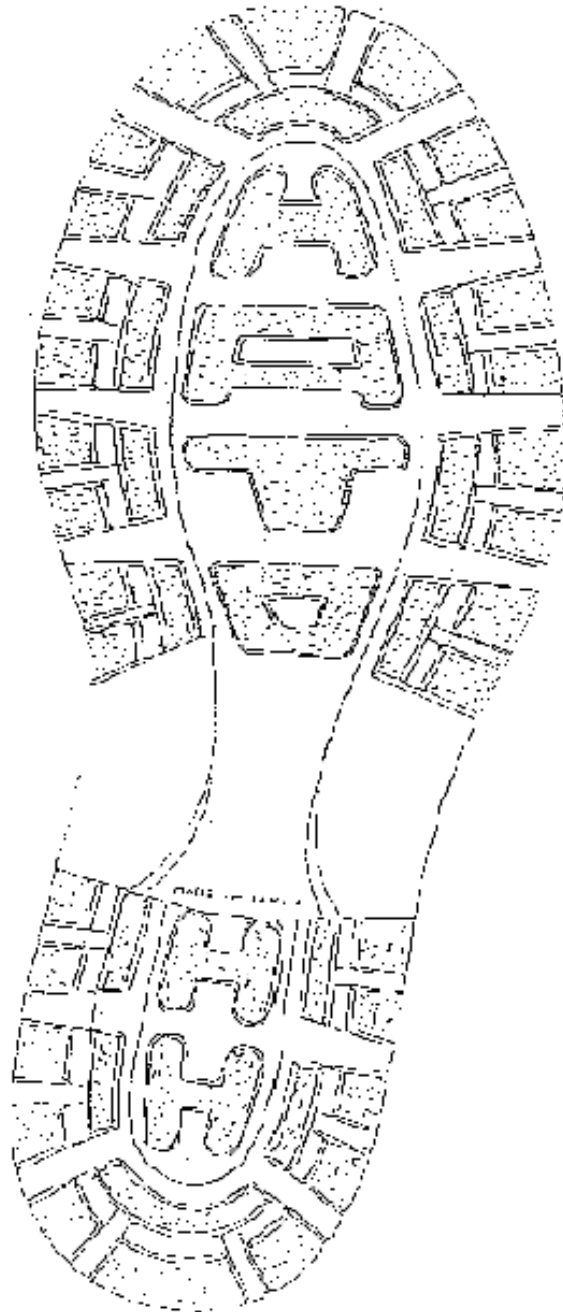
注：標準参考図です。



22.5~29.0cm

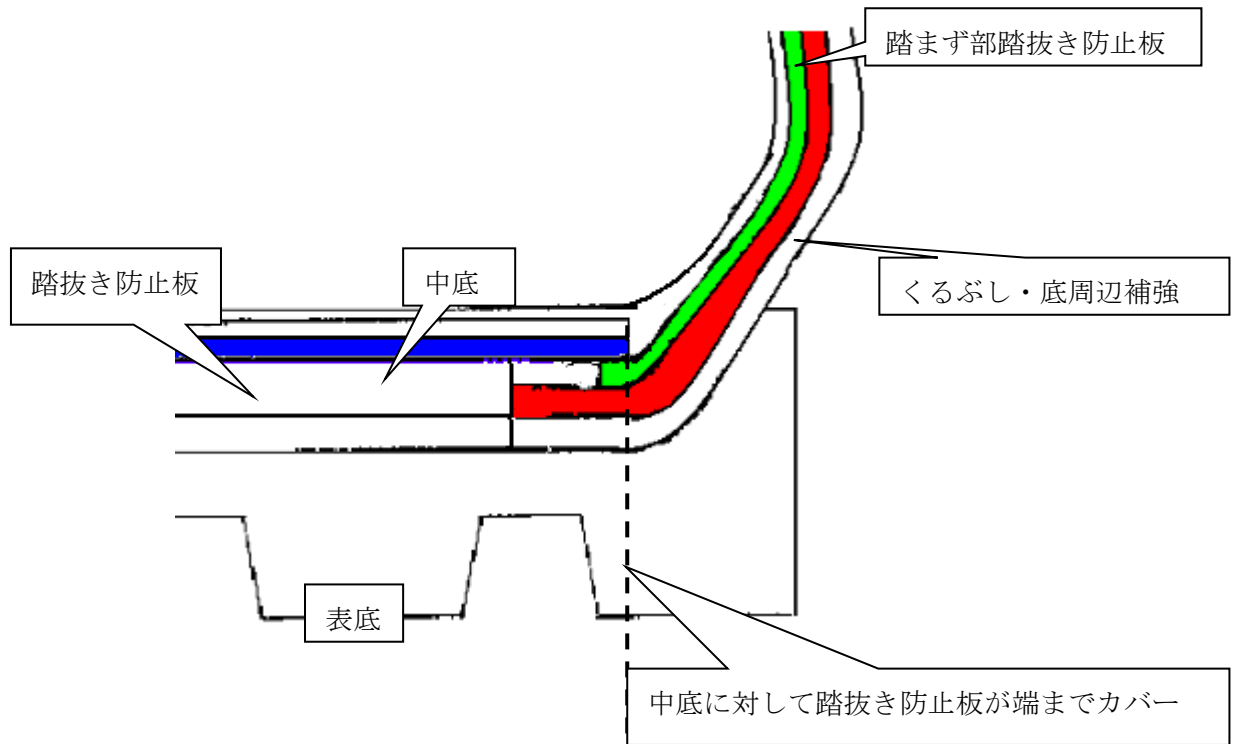
付 図 3 (表底意匠パターン) : US-2A型

注 : 標準参考図です。

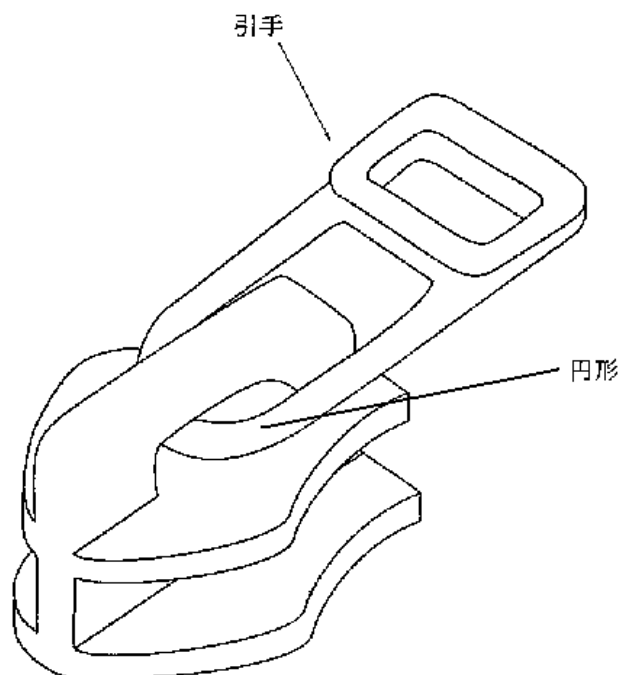


30.0cm

付図4 (くるぶし・底周辺補強, 踏抜き防止板, 踏まず部踏抜き防止板構造)



付図5 (ファスナー引き手図)



# 安全帯仕様書

【NEO-2】



### 1. 使用範囲

この仕様書は、高所での消火作業中に墜落の危険がある所で使用する安全帯について規定する。

### 2. 形状及び寸法

形状及び寸法は付図の通りとする。

### 3. 材料

安全帯に使用する主な材料は下表の通りとする。

#### 部品の材料

部 品	材 料
胴ベルト	ナイロン原糸を使用する
バックル フレーム 差込プレート ベルト通し ケース	JIS G 3141（冷間圧延鋼板及び鋼帯）S P C C、またはこれと同等以上の機械的性質を有したもの。 合成樹脂製とする。
D 環	JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）S S 4 0 0、またはこれと同等以上の機械的性質を有したもの。
カラビナ	軽合金製とする。
ロープ	ナイロン原糸を使用したもの。

### 4. 構造

安全帯の各部の構造は下表の通りとする。

#### 部品の構造

部 品	構 造
胴締めベルト	細幅織ベルトの一端にバックル本体を取付け、他端に差込プレートを取付ける。
バックル	ワンタッチ式バックルとする。
D 環	継目のない一体鍛造製で、ベルトとの接触部分には摩耗防止の措置を講じること。
ベルト通し	継目のないプレス打抜製とする。
カラビナ	カギ部は2つ以上の連続した操作によらないと外れないものとする。 ロープの横ズレを防止するためロープずれ防止ゴムを取り付ける。
ロープ	三つ打ち Z 捻りとし、ロープの一端に D 環を、他端にはカラビナを3回以上のさつま編み込みにて連結し、その取付部には摩耗防止の措置を講じること。

## 5. 性能

安全帯の性能は下記の通りとする。

性能表

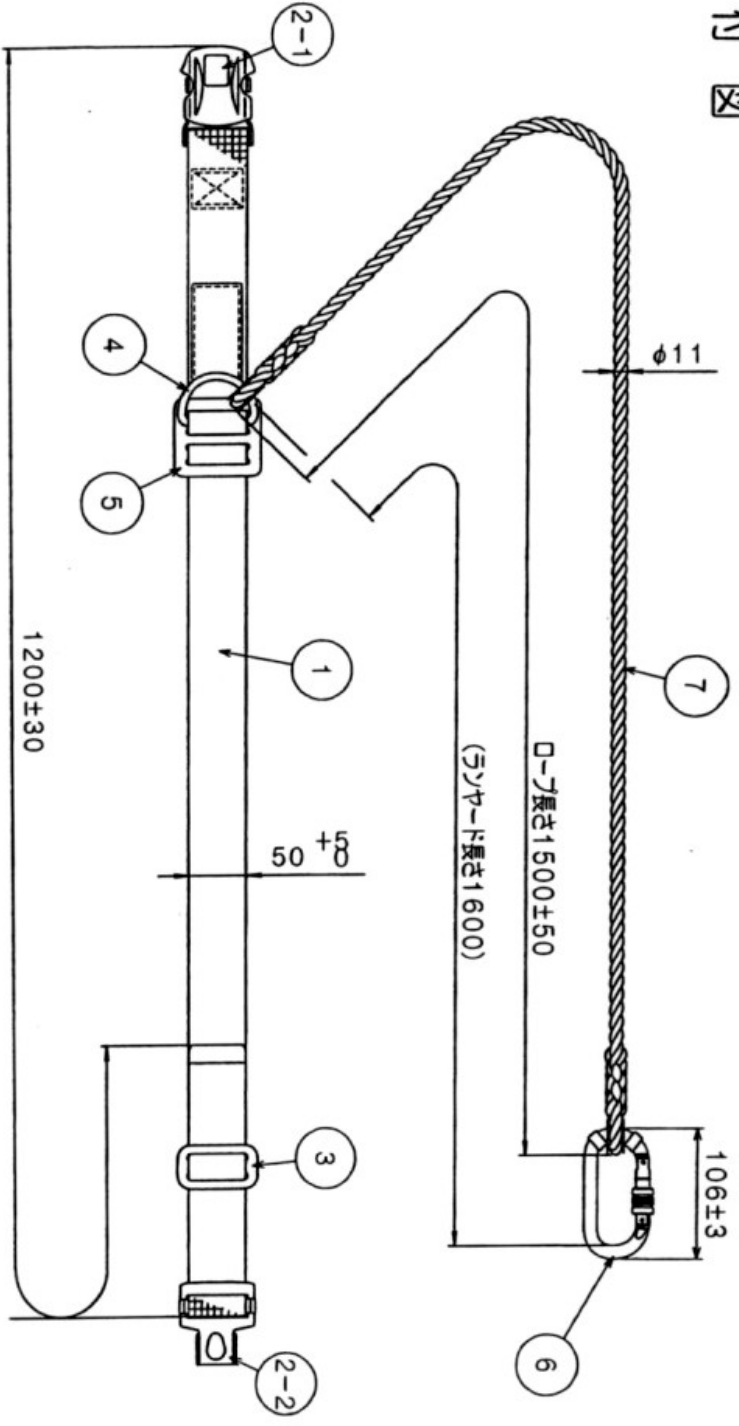
試験項目	試験方法	規格値
胴ベルトの強さ	ベルトの両端をチャックでつかみ、引張り速さを毎分約300mm以内として引張荷重を加える。	15.0kN以下で破断しないこと
ロープの強さ	ロープの両端をチャックでつかみ、引張荷重を加える。	15.0kN以下で破断しないこと
カラビナの強さ	カラビナに引張用金具を掛けて、引張荷重を加える。	11.5kN以下で破断しないこと
D環の強さ	D環に引張用金具を掛けて、引張荷重を加える。	11.5kN以下で破断しないこと
D環取り付け部の強さ	安全帯を径260mmのドラムに装着し、D環に引張用金具を掛けて、引張荷重を加える。	11.5kN以下で破断しないこと
バックル連結部の強さ	バックルを使用状態にセットし、ベルトの全幅をチャックでつかみ、引張荷重を加える。	8.0kN以下で破断し、または機能を失うほどに変形しないこと。
完成品の衝撃吸収性及び強さ	試験鉄塔の上部に取り付けたロードセルにロープ先端のカラビナを掛けて85kgの砂のうに装着した安全帯をロープ長さ(1.5m)だけ自由落下させる。	衝撃力は8.0kNを超えないこと

## 6. 表示

次の事項を安全帯の適当な箇所に表示すること。

- (1) 製造年月
- (2) 製造番号
- (3) 製造業者名またはその略号

付図



番号	部品名	番号	部品名
3	ベルト通し	7	ロープ
2-2	差しフリート	6	カラビナ
2-1	バックル本体	5	D環止め
1	鋼ベルト	4	D環